

地域おこしのプロフェッショナル 仕事の流儀

vol.9 本別町 小宮 航一 さん



~PROFILE~

本別町 小宮 航一 さん

出身：東京都

前職：陸上自衛隊

趣味：映画鑑賞、ギター

1 地域おこし協力隊になったきっかけは？

ハンターになるために地域おこし協力隊になりました。

村上龍の小説「愛と幻想のファシズム」から影響を受け、学生時代からハンターとして活動したいとずっと思っていました。しかし、大学卒業時点では、ハンターになるための資格も技術もなく、またハンターの仕事の募集もほとんどなく、とてなれる状況にありませんでした。そこで、ハンターになるために必要な射撃の技術と体力をつけようと自衛隊に入隊し、4年間を過ごした後、豊かな自然と多くの鳥獣がおり、ハンターとして活動しやすい北海道に移住しました。

最初の移住先の江別市で、罾猟免許と第一種銃猟免許を取得し、ハンターとしての仕事を探しているときに本別町が有害鳥獣捕獲を推進する地域おこし協力隊を応募していたのが目に留まったのがきっかけです。

2 日々の活動内容や活動を通じて感じていることを教えてください。

鳥獣被害を軽減するため、被害に遭われている農家さんや酪農家さんへ罾の貸出などを行っています。キツネやタヌキであれば箱罾等の設置、エゾシカについてはくくり罾を設置し、捕獲を目指します。時には、今シカがいるから駆除してほしいという依頼を受けることもあり、その時は猟銃を使用しての駆除活動もしています。

やりたかった仕事ができている、非常に満足していますが、依頼を受けて、くくり罾



▲エゾシカ用のくくり罠を設置しています。鹿に気づかれないように設置することが大切。

を設置しても捕獲できないことも多く、技術や経験が不足していると感じます。エゾシカのくくり罠は直径 12 センチ、その中に足を入れさせなくてはならず、適当に置いても基本的には掛かりません。障害物や段差などを利用し絶対に踏まざるを得ない場所に設置したり、罠の周りに石や木を配置し足を誘導する必要があります。難しい仕事であるからこそ、以前は捕獲できなかった手法でも試行錯誤により捕獲率が上がっているなど、自分の成長を実感できる部分もあります。

3 活動を通じて不安に思うことについて教えてください。

山に入る仕事柄、やはりクマは怖いです。実は、月に一度位クマに襲われる夢を見ている（笑）。本別町のクマの駆除は大きな箱罠に餌を仕掛けて、罠に掛かったクマを止め刺し（駆除）するのが主流になります。ですが一度、畑にシカが出たと連絡を受け駆除に外勤した際にクマに出くわしたことがあります。そのときは、ライフルを所持している猟友会のメンバーと合流し追跡しましたが、藪の近くなど突然クマと出会う可能性がある場所を歩くときは気が気ではありませんでした。それだけ身近にクマがいる環境ですから、山に入る際は必ずクマ用の撃退スプレーを携帯するなど、注意しています。

4 今後の展望・目標について教えてください。

協力隊の任期後については、具体的な目標は決まっていますが、本別町で引き続きハンターとして活動をしたいと考えています。猟友会も高齢化してきており、**担い手が少なくなってくると思います**が、**鳥獣被害はなくなりません。地域に必要な仕事だと思っています**。そのためにも残りの任期については、引き続きスキルアップ、経験を積みたいと思っています。



▲時には猟銃を手に有害鳥獣の駆除を行うことも。猟友会の一斉駆除にも参加しています。